

津止 正敏教授 略歴と業績

I. 略 歴

- 1953年11月 鹿児島県に生まれる
1977年3月 立命館大学産業社会学部産業社会学科卒業
1995年3月 立命館大学大学院社会学研究科応用社会学専攻博士課程前期課程修了
京都市社会福祉協議会（地域福祉部長・ボランティア情報センター長等）を経て
2001年4月 立命館大学産業社会学部教授
2019年3月 立命館大学定年退職
2019年4月 立命館大学名誉教授

（主な学内役職歴）

- 2002年4月～2004年3月 社会福祉実習指導室長
2005年9月～2007年3月 ボランティアセンター副センター長
2007年4月～2009年3月 サービスラーニング副センター長
2009年4月～2011年3月 入試担当副学部長

II. 専門分野

- 専門分野 社会学（含社会福祉関係）
担当科目 地域福祉論，社会と福祉
学位 社会学修士（立命館大学，1995年3月）
研究課題 (1) ケアとコミュニティの臨床研究
(2) 男性介護者の介護実態と家族介護者支援に関する実証研究
所属学会 日本社会福祉学会，日本地域福祉学会，日本介護福祉学会

III. 主な研究業績

著 書

1. (共編著)『放課後の障害児—障害者の社会教育—』(藤本文朗・津止正敏編，青木書店，1988年) 36-58頁
2. (共編著)『学校五日制と障害児の発達—子ども・学校・地域づくり—』(藤本文朗・三島敏男・津止正敏編，かもがわ出版，1992年) 90-108, 148-162頁
3. (共著)『住民主体の地域保健福祉計画』(河合克義他，あけび書房，1993年) 94-113頁
4. (共編著)『働きざかり 男が介護するとき』(藤本文朗・津止正敏編，文理閣，2002年) 1-5, 171-204頁

5. (共編著)『大学ボランティアセンタースタディ』(津止正敏・秋葉武・足立陽子編, 立命館大学人間科学研究所, 2003年) 全183頁
6. (共編著)『ボランティアの臨床社会学』(津止正敏・斎藤真緒編, 立命館大学人間科学研究所, 2003年) 全122頁
7. (共編著)『子育てサークル共同のチカラ当事者性と地域福祉の視点から』(津止正敏・藤本明美・斎藤真緒他編, 文理閣, 2003年) 160-171・184-198・207-212・240-243頁
8. (共著)『胎動するベトナムの教育と福祉—ドイモイ政策下の障害者と家族の実態—』(黒田学・向井啓二・津止正敏・藤本文朗, 文理閣, 2003年) 245-248頁
9. (共編著)『大学生とボランティア—大学ボランティアセンタースタディⅡ—』(津止正敏・足立陽子編, 立命館大学人間科学研究所, 2004年) 全127頁
10. (共著)『障害児の放課後保障とネットワーク—全国・障害児の放課後活動団体調査報告書』(障害のある子どもの放課後保障全国連絡会, 2005年) 全102頁
11. (共編著)『男性介護者白書—家族介護者支援への提言—』(津止正敏・斎藤真緒, かもがわ出版, 2005年) 全200頁
12. (単著)『男が介護するということ—男性介護者インタビュー調査報告書』(立命館大学人間科学研究所男性介護研究会, 2007年) 116頁
13. (単著)『ボランティアの臨床社会学Ⅱ—チャレンジドケースの臨床研究—』(立命館大学人間科学研究所, 2008年) 全167頁
14. (共編著)『障害児の放課後支援の今とこれから—全国調査(自治体調査・保護者調査)報告書—』(津止正敏・津村恵子・丸山啓史編, 立命館大学人間科学研究所臨床人間科学オープンリサーチセンター, 2009年) 全247頁
15. (共著)『ベト・ドクが教えてくれたもの—分離手術成功20周年と平和のメッセージ—』(江崎智里・津止正敏・藤本分朗, クリエイツかもがわ, 2009年) 全152頁
16. (共著)『ボランティアの臨床社会学—あいまいさに潜む「未来」—』(津止正敏・斎藤真緒・桜井政成, クリエイツかもがわ, 2009年) 全289頁
17. (共著)『ボランティア教育の新地平—サービスラーニングの原理と実践—』(桜井政成・津止正敏, ミネルヴァ書房, 2009年) 全286頁
18. (共著)『ひとりで暮らす要介護高齢者—語られた介護と暮らし』(津止正敏・草薙千尋・岸佑太編, 立命館大学人間科学研究所, 2009年) 全189頁
19. (共著)『オトコの介護を生きるあなたへ—男性介護者100万人へのメッセージ』(男性介護者と支援者の全国ネットワーク編, クリエイツかもがわ, 2010年) 102-112頁
20. (共編著)『家族介護者支援を考える—日本と英・豪・米の比較研究』(津止正敏・斎藤真緒編, 立命館大学人間科学研究所, 2011年) 全104頁
21. (分担執筆)『障害のある子どもの放課後活動ハンドブック』(障害のある子どもの放課後保障全国連絡会編, かもがわ出版, 2011年) 106-120頁
22. (共編著)『家族介護者支援の論理—男性介護者の介護実態と支援の課題—』(津止正敏・斎藤真緒編, 立命館大学人間科学研究所, 2012年) 全159頁
23. (共編著)『「介護退職ゼロ作戦」という社会運動』(津止正敏・鎌田松代・斎藤真緒編, 立命館大学人

- 間科学研究所, 2013年) 全156頁
24. (単著)『ケアメンを生きる—男性介護者100万人へのエール—』(クリエイツかもがわ, 2013年) 全147頁
 25. (単著)『しあわせの社会運動—一人がささえあうということ—』(ウィンかもがわ, 2013年) 全159頁
 26. (監修)『男の介護—そして, ケアメンになる—初めの一步—』(津止正敏・緒方有為子監修, 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ, 2014年) 全16頁
 27. (編著)『男性介護者支援の論理と根拠—ケアが拓くコミュニティ—』(津止正敏編, 立命館大学人間科学研究所, 2015年) 全127頁
 28. (分担執筆)「仕事と介護の両立支援現場から考える—企業に求められる支援の在り方」(労務行政研究所編, 『これから始める仕事と介護の両立支援』, 労務行政, 2015年) 32-47頁
 29. (編著)『ケアメン・コミュニティのマネジメント』(津止正敏編, 立命館大学人間科学研究所, 2016年) 全108頁
 30. (共著)『NHK ラジオ深夜便—こころの時代—インタビュー集1「男性介護者の輪を作る」』(増川敏英・池田武邦・市川たい子他, 名著出版, 2017年) 53-66頁
 31. (単著)『ケア・コミュニティの臨床—介護のある暮らしを社会の標準に—』(立命館大学人間科学研究所男性介護研究会, 2019年) 全93頁

論 文

1. (単著)「障害者の外出要求と交通権—京都を中心に」(『障害者問題研究』47号, 全国障害者問題研究会, 1986年) 29-42頁
2. (単著)「地域福祉活動と老人福祉センター」(老人福祉センター問題研究委員会答申『提言・明日の老人福祉センター』, 京都市社会福祉協議会, 1987年) 75-89頁
3. (単著)「社会福祉協議会と住民—社会福祉の前進を保障するものは何か—」(『総合社会福祉研究』4号, 総合社会福祉研究所, 1992年) 55-64頁
4. (単著)「障害児の放課後問題とその制度的保障—制度的保障の展望を切り開く原動力は何か—」(『障害者問題研究』71号, 全国障害者問題研究会, 1992年) 190-204頁
5. (単著)「障害児家族の子育て実態と社会福祉の課題」(『総合社会福祉研究』7号, 総合社会福祉研究所, 1994年) 80-93頁
6. (単著)「地域福祉の福祉事業化に関する実証研究—社会福祉協議会の『第3次福祉事業化の時代』—」(『総合社会福祉研究』8号, 総合社会福祉研究所, 1995年) 134-152頁
7. (共著)「地域社会の福祉機能と市民主体活動」(久常久・津止正敏, 『福井県立大学看護短期大学部論集』第7号, 福井県立大学看護短期大学部, 1998年) 175-184頁
8. (共著)「地域福祉における公的責任と民間性のもつ役割」(久常久・津止正敏, 『福井県立大学看護短期大学部論集』第7号, 福井県立大学看護短期大学部, 1998年) 163-174頁
9. (単著)「NPO 法と社会福祉—社会福祉の公私関係—」(『総合社会福祉研究』14号, 総合社会福祉研究所, 1999年) 166-178頁
10. (単著)「福祉のまちづくりと障害者・ボランティア」(『座して障害者と語る—藤本文朗退官記念論集—』, 文理閣, 2000年) 270-285頁

11. (単著)「ボランティアコーディネーター養成プログラムの研究」(『地域福祉・ボランティア研究』No. 2, 京都市社会福祉協議会, 2000年) 4-17頁
12. (単著)「大学との連携におけるボランティア人材養成への取組み」(『月刊福祉』2000年3月号, 全国社会福祉協議会, 2000年) 58-61頁
13. (単著)「ボランティア国際年にあたって」(『人間発達研究所通信』Vol. 6-3, 人間発達研究所, 2001年) 3-6頁
14. (単著)「今こそ学校・地域・家庭の総力で放課後保障を」(『みんなのねがい』403号, 全国障害者問題研究会, 2001年) 24-27頁
15. (単著)「障害児の放課後ケアとボランティア・ムーブメント—京都での障害児の学童保育保障運動を素材に—」(『障害者問題研究』29巻1号, 全国障害者問題研究会, 2001年) 42-53頁
16. (単著)「福祉とコミュニティ—地域福祉臨床の視点—」(『立命館人間科学研究』2号, 立命館大学人間科学研究所, 2001年) 133-149頁
17. (単著)「福祉ボランティア」(『福祉のひろば』通巻394号, 総合社会福祉研究所, 2001年) 8-14頁
18. (単著)「学校5日制と障害児の放課後ケア」(『障害者教育科学』46号, かもがわ出版, 2003年) 34-38頁
19. (単著)「行政とボランティア活動」(『研修』, 京都市職員研修所, 2003年) 40-49頁
20. (共著)「つなぐ機能と情報」(松浦さと子他, 『市民発・大阪まちづくり—多様なセクターの共同をめざして—』, 財団法人大阪都市協会, 2003年) 59-68頁
21. (共著)「障害のある子どもと家族の放課後・休日の実態—京都障害児放課後・休日実態調査から—」(津止正敏・立田幸代子, 『立命館人間科学研究』7号, 立命館大学人間科学研究所, 2004年) 63-73頁
22. (単著)「日本における障害児の放課後ケアを巡る現状と課題について」(日本ベトナム友好障害児教育・福祉セミナー実行委員会編, 『日本ベトナム障害児教育・福祉研究①障害児の未来のために』, 文理閣, 2004年) 38-42頁
23. (共著)「障害児・家族の生活実態と地域生活支援—京都・障害児放課後休日実態調査から—」(津止正敏・立田幸代子, 『障害者問題研究』32巻4号, 全国障害者問題研究会, 2005年) 285-292頁
24. (単著)「地域福祉とネットワーク—人と人がつながる力—」(加藤直樹他編著, 『人間らしく生きる福祉学—はじめて学ぶ人の社会福祉入門』, ミネルヴァ書房, 2005年) 22-31頁
25. (単著)「大学とNPO・NGOの連携強化を展望する『学生の学びと成長を支えるパートナーシップ: ボランティア研究の経験から』」(産業社会学部40周年記念 連続シンポジウム「21世紀の世界と日本を読み解く—新たな社会パラダイムを求めて—」『立命館産業社会論集』128巻, 2005年) 13-29頁
26. (単著)「2005年を放課後元年に—障害児の放課後保障の現状と課題—」(『みんなのねがい』463号, 全国障害者問題研究会, 2006年) 50-51頁
27. (単著)「放課後保障の環境の大きな変化—『障害児の放課後活動団体に関する調査』結果より—」(『みんなのねがい』464号, 全国障害者問題研究会, 2006年) 50-51頁
28. (単著)「男の出番」(『COMCOM』470号, 日本生活共同組合連合会医療部会, 2006年) 3-7頁
29. (単著)「いきいきとボランティア活動—安心してくらせる市民社会のために—」(『きづき・きっかけ・きずなボランティア2006報告書』, 滋賀県社会福祉協議会, 2007年) 1-7頁

30. (共著)「自立支援法の児童デイサービスへの影響と障害のある子どもの放課後保障の課題—児童デイサービス緊急実態調査を中心に—」(日紫喜あゆみ・津止正敏,『立命館産業社会論集』第43巻第1号, 2007年) 123-144頁
31. (共著)「家事に戸惑い孤立に悩む夫たち息子たち—全国調査データが示した“現実”」(『論座2007年8月号』147号, 朝日新聞社, 2007年) 261-268頁
32. (単著)「うつろう家族 夫, 息子—増える男性介護者」(『月刊ケアマネジメント』18号, 環境新聞社, 2007年) 14-18頁
33. (単著)「地域活性化ボランティア教育プログラムの深化と発展— Reflective Approach の可能性—」(『大学時報』318巻, 日本私立大学連盟, 2008年) 38-45頁
34. (単著)「『男性介護者白書』が明かす男たちの生活力と家族愛」(『かいごの学校』第5巻第4号, 日本医療企画, 2008年) 10-13頁
35. (単著)「いま障害児の放課後は—障害のある子どもの放課後保障運動の到達」(村岡真治,『ゆうやけで輝く子どもたち』, 全国障害者問題研究会, 2008年) 104-113頁
36. (単著)「世界中の父母や祖父母の愛情に包まれて—ベトドク分離手術成功20周年記念式典に参加して—」(『みんなのねがい』501号, 全国障害者問題研究会, 2008年) 58-59頁
37. (単著)「家族介護者支援のリアリティー—男性介護者研究からの提言—」(『高齢者虐待防止研究』第5巻第1号, 日本高齢者虐待防止学会, 2008年) 32-38頁
38. (単著)「介護で孤立しないネットワークづくり」(月刊『地方自治職員研修』591号, 公職研, 2009年) 17-19頁
39. (単著)「男性介護者100万人時代」(『部落解放』630号, 解放出版社, 2010年) 70-73頁
40. (単著)「(福祉論壇) 男性介護者100万人への支援を考える」(『月刊福祉』93巻11号, 全国社会福祉協議会出版部, 2010年) 46-47頁
41. (単著)「介護の社会化と介護者支援を考える—介護保険10年目の検証—」(『福祉社会研究』11号, 京都府立大学福祉社会研究会, 2011年) 3-23・47-56頁
42. (単著)「『介護者を支援する』ということ」(月刊『国民生活』40号, 国民生活センター, 2011年) 17-19頁
43. (単著)「介護保険制度の改善課題を検証する—医療福祉生協連の介護保険利用状況調査から—」(『COMCOM』No.529号, 日本医療福祉生活協同組合連合会, 2011年) 9-12頁
44. (単著)「男性介護者100万人時代の支援を考える」(『月刊福祉100の論点』Vol. 2, 全国社会福祉協議会, 2012年) 96-97頁
45. (単著)「男性介護者100万人時代—介護者支援を進め『介護の社会化』の完成を」(『介護保険情報』13巻4号, 社会保険研究所, 2012年) 8-11頁
46. (単著)「ケアメンプロジェクト—介護退職ゼロ作戦を社会運動に—」(『月刊看護』64巻11号, 日本看護協会出版会, 2012年) 20-21頁
47. (単著)「高齢者の権利擁護・虐待防止の動向」(『権利擁護・虐待防止白書2012』, 全国社会福祉協議会, 2012年) 39-42頁
48. (単著)「ケアメン百万人時代の実態と課題」(『中央公論』2013年10月号, 中央公論社, 2013年) 138-145頁

49. (単著)「高齢者の権利擁護・虐待防止の動向」(『権利擁護・虐待防止白書2013』, 全国社会福祉協議会, 2013年) 58-61頁
50. (共著)「介護と仕事の両立をめぐる課題—ワーク・ライフ・ケア・バランスの実現に向けた予備的考察—」(斎藤真緒・津止正敏・小木曾由佳・西野勇人, 『立命館産業社会論集』 49巻 4号, 2014年) 119-137頁
51. (共著)「ケアが拓くコミュニティ—『ケアメンサミット JAPAN』活動報告書—」(津止正敏・西田朗子, 男性介護者と支援者の全国ネットワーク, 2014年) 全39頁
52. (単著)「介護者支援を考える第1回 家族介護者の現状と課題」(『国民生活』 30号, 国民生活センター, 2015年) 17-18頁
53. (単著)「介護者支援を考える第2回 老老介護の現状と課題」(『国民生活』 31号, 国民生活センター, 2015年) 15-16頁
54. (単著)「介護者支援を考える最終回 仕事と介護と暮らし」(『国民生活』 32号, 国民生活センター, 2015年) 16-17頁
55. (単著)「男性介護者への包括的支援の論理と根拠—暮らしと介護, 仕事と介護の視点から—」(『社会福祉研究』 第122号, 公益財団法人鉄道弘済会, 2015年) 47-56頁
56. (単著)「男性介護者の仕事と介護を巡る実態と論点—介護者モデルの変容と新しい生き方モデル—」(『生活経済政策』 223号, 生活経済政策研究所, 2015年) 12-17頁
57. (単著)「急増する男性介護者の介護実態—深まる葛藤と新しい『生き方モデル』」(『女も男も』 126号, 労働教育センター, 2015年) 34-40頁
58. (単著)「一人で抱え込む男性介護者への生き方モデルを」(『公明』 通巻124巻, 公明党機関紙委員会, 2016年) 22-27頁
59. (単著)「京都での障害児者の運動—障害児者・家族と支援者の合力—」(『みんなのねがい』 601号, 全国障害者問題研究会, 2016年) 24-25頁
60. (単著)「介護者が前向きに生きられる社会を」(『女性のひろば』 459号, 日本共産党中央委員会, 2017年) 66-71頁
61. (単著)「家族介護者を支援する—支援の根拠と枠組み—」(『老年精神医学雑誌』 第28巻第8号, 日本老年精神医学会編, 2017年) 918-927頁
62. (単著)「仕事と介護の両立を考える—『ながら』介護の実態から—」(『季刊個人金融』 Vol.13巻 No.1号, ゆうちょ財団, 2018年) 44-52頁
63. (単著)「男性の介護労働—男性介護者の介護実態と支援課題」(『日本労働研究雑誌』 第699号, 労働政策研究・研修機構, 2018年) 40-51頁

その他

1. (単著)「男性介護者の『いま』を知る」(『未来館 News』 Vol.41号, 福島県男女共生センター, 2010年)
2. (単著)「ケアされる人／する人の包括的な暮らし支援」(『きずな』, 兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会, 2011年) 3頁
3. (単著)「男性にとっての男女共同参画—ともに介護を担う時代—」(『MOVING』 68号, 北九州市立

- 男女共同参画センター, 2012年) 9頁
4. (単著)「〈インタビュー〉『ケアメン』に必要な企業の支援とケア・コミュニティの確立」(『人事実務』, 産労総合研究所, 2014年) 20-24頁
 5. (単著)「男性介護者の現状と課題」(『Newsletter ダイバーシティ通信』 No.10号, 首都大学東京, 2014年) 2-3頁
 6. (単著)「介護される人／する人も支援の枠に」(『Ms. スクウェア』 83号, 清瀬市男女共同参画センター, 2015年) 6頁
 7. (単著)「『ケアのある生活』が『あたりまえ』になる時代」(『ウエルおおさか』 Vol.98号, 大阪市社会福祉研修・情報センター, 2015年) 4頁
 8. (単著)「男性介護者への社会的関心の広がりが意味すること—介護のある暮らしを社会の標準に一」(『男女共同参画通信』 vol.44号, 京都市男女共同参画推進協会, 2017年) 4-5頁
 9. (単著)「独りで耐えないで」(『読売新聞』 2017年8月2日夕刊, 2017年) 3頁
 10. (単著)「『介護』をめぐる課題と展望⑥」(『生産性新聞』 第2539号, 公益財団法人日本生産性本部, 2017年) 7頁
 11. (単著)「男性介護者の支援のあり方や課題を聞く」(『経団連タイムス』 3346号, 日本経済団体連合会, 2018年) 2頁
 12. (単著)「男性が介護を問う意味—男女共同参画の時代を生きる—」(『ぴゅあ』 51号, 山梨県男女共同参画推進センター, 2018年) 3頁
 13. (単著)「連載『男たちの介護』」(『佼成新聞』 第2823号, 立成佼成会, 2018年) 1頁
 14. (単著)「コラム『男の介護』」(『週刊金曜日』 1224号～1235号, 株式会社金曜日, 2018年) 46頁

IV. 社会における活動

2005年4月～2015年5月	社会福祉法人七野会理事
2005年11月～	社会福祉法人みんななかま理事長
2006年4月～	滋賀県社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員長
2009年3月～	男性介護者と支援者の全国ネットワーク事務局長
2010年5月～2016年7月	滋賀県男女共同参画審議会委員
2010年6月～2019年6月	日本医療福祉生活協同組合連合会理事
2010年4月～	一般社団法人京都ボランティア協会理事
2011年11月～	一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事
2013年4月～2018年2月	京都府介護プラットホーム委員
2014年3月～2018年2月	京都府参与
2015年4月～	茨木市総合保健福祉計画審議会地域福祉分科会長
2015年6月～	一般社団法人日本エルダーライフ協会監事
2017年6月～	宇城久社会保障推進協議会議長
2018年7月～2019年3月	舞鶴市第4期地域福祉計画策定懇話会会長

以上